

令和 3 年度 学校自己点検・自己評価結果

Y I C 看護福祉専門学校

学校教育法施行規則第 189 条及び第 190 条において専修学校及び各種学校についての準用が規定されており、専修学校・各種学校においては、自己評価の実施と評価結果の公表が義務化され、学校関係者評価の実施と評価結果の公表が努力義務化されている。本校では、学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めることを目的とし、学校自己点検・自己評価並びに学校関係者評価を実施している。

I 令和 3 年度重点項目への取組

1 学生募集

(1) 各ガイダンス（高校・会場）から OC への導線強化

<看護学科>

- ・高校の看護体験、職業紹介の授業を実施

<介護福祉学科>

- ・福祉科のある高校の教諭、保護者、生徒への福祉の現状と学科説明
- ・コロナ禍で留学生の日本語学校への入学が叶わず、国際事業センターや日本語学校と連携した留学生確保が低迷

<社会人入学生の確保>

- ・社会人入学生の募集広告を HP に掲載
- ・社会人特待生制度、教育訓練給付金対象者サポート制度の説明
- ・ハローワークでの説明会

<その他>

- ・令和 4 年度入学生対象入学選抜試験選考料 5,000 円減免制度
- ・併願応援キャンペーンの継続

(2) OC、ガイダンス等の対応マニュアルを活かした学生募集

- ・学生による学科説明はオンラインで実施
- ・個別クロージングの強化

(3) SNS を活用した募集活動の強化

- ・月に 1 回は Instagram で学校生活を紹介
- ・LINE を活用したオープンキャンパス・DM での登録案内

(4) 重点校に対しての募集活動の継続、強化

- ・本部広報による高校訪問

2 教育内容の充実

(1) Microsoft 365 のアプリを活用した教授・学習方法の工夫

- ・国試対策・単位修得試験対策の一環とした定期的な問題配信

- ・感染症対策、非常勤講師の日程変更に対応したオンライン授業
- (2) 国家試験対策の計画的な実施と強化
 - ・在学期間中、各学年の到達目標を定める。
 - ・単位修得試験結果、国試模試結果から学生個々の成績推移をデータ化
 - ・月1回の国家試験対策委員会で1か月の取り組み状況の報告・課題と対策を協議
- (3) 育成人材像に向けたカリキュラム編成
 - ① 介護：新カリキュラムの実施と評価
 - ・新カリスタートして1年経過
 - ② 看護：新カリキュラム申請に向け効果的なカリキュラム編成の検討
 - ・令和3年9月申請
- 3 学生支援体制の充実
 - (1) クラス・学年担当による活気溢れる運営
 - (2) 学生・企業のニーズに応じた計画的・効果的なキャリアサポート
 - (3) 留学生および学力の低い学生への学習支援の充実
- 4 積極的な社会貢献活動
 - (1) 高校との連携を通じた看護・介護の魅力発信
 - <看護学科>
 - ・高校の看護体験、職業紹介の授業を実施
 - <介護福祉学科>
 - ・福祉科のある高校の教諭、保護者、生徒への福祉の現状と学科説明
 - (2) 地域住民との交流・ボランティア活動への参加
 - ・ボランティア活動へは感染予防対策を取り参加
- 5 外部事業・付帯事業の満足度の高い企画・運営
 - (1) 相談支援従事者研修及びサービス管理責任者等研修事業の円滑な運営
 - ・受講者の募集は4月から翌年1月、延べ27回の集合研修、動画視聴による講義受講の企画運営
 - ・介護福祉士実務者研修通信課程（6月～11月）実施
 - (2) 外部事業・付帯事業の前年度アンケート結果を活かした企画・運営

Ⅱ 令和3年度学校自己点検・自己評価

- 1 学校自己点検・自己評価の実施
 - (1) 評価方法
 - ①評価内容：全国専門学校経営研究会自己点検・自己評価項目（資料）
9個の大項目、15個の中項目、124個の小項目

項目の重要度ランク

- Aランク：設置基準レベル（専修学校として必須）—31 項目
Bランク：全国専門学校経営研究会加盟校目標 —47 項目
Cランク：理想的な姿（努力目標） —41 項目
ランクなし：学校法人レベル — 5 項目

- ②評価基準：4：できている、 3：ほぼできている
2：あまりできていない、 1：できていない

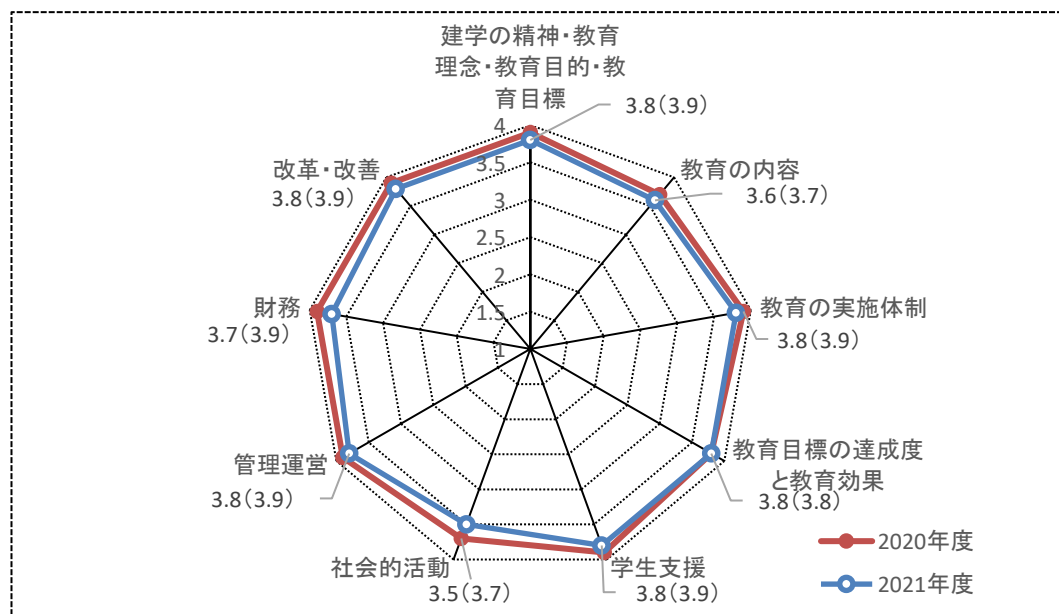
(2) 評価者：教職員25名

(3) 評価時期：令和3年12月9日～令和4年1月7日

2 評価結果

(1) 大項目の評価結果（昨年度比較）

図1 令和2年度及び令和3年度の評価結果



(2) 項目の重要度ランク（A～C）別結果

- Aランク：大項目1，3，5，7，8，9中31項目の評価平均3.9
Bランク：すべての大項目中47項目の評価平均3.8
Cランク：すべての大項目中45項目の評価平均3.6

3 大項目の評価の根拠、課題と対策

(1) 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

<評価の根拠>

① 教育理念・目的・目標・育成人材像の明文化

職業教育機関として専修学校教育に必要とされる考え方や指針、内容

等を盛り込んでいる。

- ・学校案内（パンフレット）、ホームページ、学生便覧へ掲載している。
- ・各教室に校訓を掲示、学生やＯＣ等の来校者へ周知を図っている。
- ・経営計画書（教職員手帳）にＹＩＣ学院の教育理念を掲載している。

（２）教育の内容

＜評価の根拠＞

① カリキュラム作成への取組

- ・カリキュラム改正に伴い、３つのポリシー（アドミッション・カリキュラム・ディプロマ）及びカリキュラム内容の見直しを行った。
- ・カリキュラム編成は、学科内で協議後、運営会議、教育課程編成委員会を経て学内決裁を得ている。
- ・カリキュラム編成の指針に基づき、新カリキュラムの作成に取り組んだ。専門職に求められる能力を培うために、履修総単位数も増加された。奇しくも、オンライン授業やオンデマンド型授業等、Wi-Fi 環境を整え、教員一人ひとりがその能力を身につけることができた。
- ・シラバスは入学時に配布し、各科目の初回授業時に説明、国家試験出題基準、学生の授業評価を基に毎年見直しを行い、授業内容の充実を図っている。

② 教授学習プロセス改善への取組

- ・Microsoft 365 のアプリを活用した教員（常勤・非常勤）の授業評価アンケートを実施し、教員自身の内省、教育内容の見直しに役立てている。
- ・授業評価に関する目標設定及び評価結果に基づく改善策等は、職務目標・能力自己申告の上長面接時に確認・評価しているが、授業評価に関する４項目のうち、Ｃランク２項目の結果に基づく「授業改善のための組織的な取り組み（授業改善委員会等）について」は、評価点 3.4 であった。

③ 業界ニーズに対応した付加的教育の取組

- ・実習前オリエンテーション、事前学習、自己評価・他者評価による学習の評価を実施し、目標到達度に応じて補習を実施している。
- ・「ビジネス教育」については、看護学科は特別授業、介護福祉学科は履修科目として、社会人基礎力育成講座、ビジネスマナー、ソーシャルスキル、自己理解、職業倫理、文章の書き方、履歴書の書き方等を実施している。
- ・YIC グループ校との連携講座（看護、介護、理学療法・作業療法、美容）、他職種理解として、専門職による職業紹介の実施
- ・実習施設との定期的な会議の実施

- ・学内実習における模擬患者の導入

④ 教員の資質の維持・向上に向けた取組

- ・5項目すべてにおいて、0.1～0.3低下
- ・教員のスキルアップを目指し、研修計画を立案したが、コロナ禍で研修の多くはオンラインでの開催や中止となった。
- ・年2回のY I C研修も、一部オンライン研修を取り入れ実施した。
改正カリキュラム関連の看護専門研修もオンラインで参加した。

<課題と対策>

① 課題：介護は2021年度、看護は2022年度にカリキュラム改正

対策：新カリキュラムにて学習した介護1年生の教授・学習過程を評価する。

② 課題：カリキュラム改正に伴い、多くの科目のシラバスが変更となった。

対策：各科目の1コマごとの授業のシラバスについては、授業案作成時に修正若しくは新たに作成していく。

③ 課題：非常勤講師も含めすべての科目の授業評価を実施しているが、学生の授業評価アンケート回答率が50%を下回っている科目もある。

対策：授業時間内に授業評価時間を確保する。学生の意識を高められるように授業評価結果の活用方法を検討する。・・・検討中

(3) 教育の実施体制

<評価の根拠>

① 教育環境の整備・活用

- ・組織図があり、コミュニケーションルートが明確に示されている。
- ・年間行事スケジュールを立案し、計画的な取組を行っている。
- ・環境整備点検を月1回計画的に実施している。
- ・防災・防火、感染症発生等に関する危機管理マニュアルを備え、防災規程に則り年1回の防火訓練を実施している。

<課題と対策>

① 課題：就職支援を行う場所として、キャリアサポート室を設置しているが、学生面談を行う場所も兼ねている。200人以上の学生数を抱え、複数の学生相談室の確保が求められる。

対策：ほとんど使用しない備品が収納されていた倉庫を整理し、学生面談室を確保した。新年度から利用簿等を作成し、効果的な活用を目指す。

(4) 教育目標の達成度と教育効果

<評価の根拠>

① 教育目標、育成人材像に向けその達成への取り組みと評価

- ・就職希望者の就職内定率目標・実績 100%
- ・就職活動記録（インターンシップや見学会、説明会への参加報告、就職試験報告、内定報告を受けデータ入力）
- ・国家試験合格率目標 100%
- ・レクリエーション介護士 2 級取得
- ・退学率目標 3 %以下、現在の退学率 1.4%
- ・HP 公表データ：就職率と就職先、国家試験合格率、退学者数
- ・卒業生の就職先に連絡し、就業状況を確認、卒業生及び職場の上司にアンケート調査を実施

<課題と対策>

① 課題：在籍学生数：令和 3 年 4 月当初 217 名

2/1 現在、休学 5 名、(理由は学校生活・進路不安、家庭の事情、身体的理由)、退学 3 名 (理由は進路変更、すべて看護 1 年)

対策：学年担当を窓口、相談しやすい環境を整える

総合支援室と連携し、身体的・精神的理由による学生生活が困難な学生、学習習慣がついておらず学習困難な学生、休学中の学生等の支援を行う。

保護者も含め、相談や検討を十分行い、学生自身が納得した上で進路が決定できるように支援する。

(5) 学生支援

<評価の根拠>

① 入学前の学生支援の整備

- ・学校案内パンフレットに育成人材像や目指す資格、学費や教材費、OC や学校説明会の日程や内容を掲載
- ・教員・学生の OC 担当スタッフミーティングを実施し、対応や説明内容の共有化
- ・入学予定者への学習指導（入学前教育教材を 1 月に送付し、入学後課題提出）
- ・入学前オリエンテーション（3 月末）

② 在学時の学生支援の整備

- ・看護学科は 2～3 名の教員による学年担当制、介護福祉学科は担任、副担任を配置
- ・クラス・学年担当中心に定期的な学生面談の実施と面談記録の共有、入学前教育（課題学習）結果、QU（学校満足度、学校生活意欲度）結果をもとに学生個々の課題の明確化及び指導方法の共有化を図る。

- ・外国人留学生の生活指導、日本語教育
- ・国家試験合格に向けた学習指導体制（各学科・各学年別）
- ・オンライン授業の適宜導入
- ・Microsoft 365 のアプリを活用した課題配信、諸連絡、アンケートの実施

③ 卒業後の学生支援の整備

- ・卒業生への就職相談
- ・「卒業生の就職先への定期的な訪問」は 3.2 と 2 年連続低下している。コロナ感染症拡大予防のため企業訪問を中止した結果と考える。
- ・8 月のホームカミングデーは、介護福祉学科はオンラインで実施、看護学科は中止とした。

④ 学校情報の通知

- ・「学校情報を保護者に知らせているか」は 3.4（- 0.3）である。コロナ感染症拡大予防策としての学校対応等、保護者への通知は、昨年度の経験から速やかに対応できた。
- ・保護者・高等学校・企業等へは、広報活動や YIC ニュース、HP、Instagram 等で学校情報を伝えている。

<課題と対策>

① 課題：コロナ感染症予防対策を講じるとともに、効果的な教授・学習方法を選択する。

対策：オンライン授業やオンデマンド活用に必要な機器の選択とそれに合わせた授業準備を推進し、効果的な機器の取り扱いの習熟に努める。

② 課題：学生個々の情報把握と共有化、タイムリーな学生支援

対策：担任・副担任間、学年担当間、学科内の情報共有、連携を更に強化し、学生支援にあたる。

(6) 社会的活動

<評価の根拠>

① 意図的・計画的・組織的な社会活動への取組

- ・学生ボランティア活動の要請は 4 件あったが、コロナ禍で 3 件は活動中止、参加 1 件
- ・定期的な自治会や高等学校福祉科との交流もコロナ禍で中止
- ・地域の自治会と協力した O C の企画もコロナ禍で中止
- ・社会福祉協議会、高齢者保健福祉推進会議、障害者福祉推進会議、山口県介護福祉士会、山口県看護協会防府支部、介護認定審査会等の委員を務め、定期的な委員会に参加している。

＜課題と対策＞

① 課題：積極的な医療・福祉に関する情報発信・啓発活動

対策：コロナ感染症終息後に備え、諸団体（介護福祉団体、社会福祉協議会、看護協会、町内会等）と連携を取り合う。

（７）管理運営、（８）財務

＜評価の根拠＞

① 学校の管理運営体制の確立

- ・ 防災・防犯・非常時対策が危機管理マニュアルに明記されている。
- ・ 理事会・評議委員会、人事規程・賃金制度等、本部管理のものも多くあるが、本校においては、各部門代表者による経営状況や運営状況を協議する会議、管理職による学校運営会議、管理職・各部門担当によるアメーバ会議、全職員による職員会議を毎月実施している。また、各学科会議を随時開催し、円滑な学科運営を心掛けている。
- ・ 外部委員を委嘱し、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会を設置し、職業実践専門課程認定校としての責任が果たせるよう努めている。
- ・ 外部委員として、防府市障害者保健福祉推進協議会、防府市高齢者保健福祉推進会議、防府市地域総合支援協議会、防府市社会福祉事業団連絡会議、防府市社会福祉協議会評議委員会、介護福祉士会理事会、社会福祉研修事業運営委員会、等を承引している。

（９）改革・改善

＜評価の根拠＞

① 自己点検・評価活動の実施体制が確立し、改革・改善のためのシステム構築

- ・ 学校教育法施行規則第 189 条及び第 190 条に基づき、Y I C 学院は「全国専門学校経営研究会自己点検・自己評価表」による学校自己点検・自己評価を毎年実施している。
- ・ 自己点検・自己評価結果は、学校関係者評価委員会で報告、承認を得て、公表資料を作成している。また、委員からの意見を参考に次年度の重点項目を定め改善に向け組織的に取り組んでいる。
- ・ 自己点検・自己評価結果は、報告書にまとめ、HPで公表している。

＜課題と対策＞

① 課題：学校自己点検・自己評価結果は、運営委員会を経て職員会議で報告しているが、教職員個々の課題として周知する必要がある。

対策：・次年度の重点項目については、運営会議で再度検討し、職員会議学科会議等で周知する。

- ・教職員は、学校の管理運営メンバーの一員として、本校の課題や次年度の重点項目を視野に、自己の職務目標に反映し、具体的な行動計画のもと実践する。

令和4年度の重点項目（案）

1 学生募集

- （1）各ガイダンス（高校・会場）からOCへの導線強化
- （2）OC、ガイダンス等の対応マニュアルを活かした学生募集
- （3）SNSを活用した募集活動の強化
- （4）重点校に対しての募集活動の継続・強化

2 教育内容の充実

- （1）ICTを活用した教授・学習方法の工夫
- （2）国家試験対策の計画的な実施・強化
- （3）育成人材像に向けたカリキュラム編成
 - ①介護：新カリキュラムの実施と評価
 - ②看護：新カリキュラムの実施と評価

3 学生支援体制の充実

- （1）クラス・学年担当による活気溢れる運営
- （2）学生・企業のニーズに応じた計画的・効果的なキャリアサポート
- （3）学力の低い学生及び留学生への学習支援の充実

4 積極的な社会貢献活動

- （1）高校との連携を通じた看護・介護の魅力発信
- （2）地域住民との交流・ボランティア活動への参加

5 外部事業・付帯事業の満足度の高い企画・運営

- （1）外部事業・付帯事業の前年度アンケート結果を活かした企画・運営